


第1号議案

2021年度 活動報告

新型コロナウイルス感染症は6度の波を経験しましたが、収まる気配はなく新たな変異株が次々と現れており、私たちは新型コロナウイルスを恐れることなく共存して生活し、地域活動も進めていくことが大事だと感じています。

旭区で推進している第4期旭区地域福祉保健計画（計画期間：令和3年度から令和7年度）「きらっとあさひプラン」は、旭区で生活・活動している「すべての人」が健康でしあわせな生活を送れるまちを目指し、行政はもとより、地域で住みよいまちづくりに取り組まれている関係諸団体と協働し、地域住民が主体となって、共に力を合わせて取り組む計画です。

若葉台地区社協では、「密」を避けながら、若葉台連合自治会、若葉台住宅管理組合協議会、若葉台まちづくりセンターをはじめ若葉台地域ケアプラザ、認定NPO法人若葉台、NPO若葉台スポーツ・文化クラブ、旭区役所、横浜市社会福祉協議会、旭区社会福祉協議会などの関係組織の支援をいただきながら、「見守り」、「参加できる機会」、「居場所づくり」、「啓発」をテーマに『困った時に声をあげられる雰囲気のあるまちづくり』を目指して「挨拶運動」と移動サロン「ほっこり」をはじめ、地域福祉保健部会、子育て部会、障がい児・者部会を開催して「福祉のまちづくり」に取り組んでいます。

若葉台の少子高齢化は一層進み（0～18歳人口は1117人、8.3%）、高齢化率は2021年9月末に53.0%となりました。前期高齢者（3423人、25.3%）と後期高齢者（3734人、27.6%）との差は団塊の世代が全員後期高齢者となる2025年までは続くものと思われます。地域福祉活動には高齢者への対応はもちろん、若い世代が安心して子どもを育てられる環境を整える子育て支援、さらには障がい児・者の居場所づくりなどの課題に着実に取り組むことが益々求められています。

以下、2021年度の活動報告をいたします。

1. みんなで取り組む社会福祉活動の推進

(1) 高齢者福祉活動

① 老人クラブ若葉台支部（かがやきクラブ）への支援

かがやきクラブの友愛活動部会は各自治会の福祉部、民生委員・児童委員と協働で「高齢者見守り活動」を実施しています。また「子ども達の見守り」や「赤い羽根街頭募金活動」「公園等の清掃活動」など活発な地域への貢献活動や各種の文化とスポーツ活動を展開しており、こうした諸活動に地区社協としても支援してきました。またかがやきクラブの会長会議に参加し情報提供・情報交換に努

めてまいりました。

支援の一環として区老連若葉台支部へ助成金を支援しました。(別表1参照)

② 第26回若葉台地域交流会

新型コロナウイルス感染拡大で中止しました。

(2) 子育て支援活動

① 子育てスタンプラリー

若葉台に身内・知り合いのいない、一人で子育てに悩んでいらっしゃる子育て世帯に対して、「そらまめ」、「若葉台子育て母の会」など既存の子育て組織への参加をためらっている世帯の背中を押す一助(きっかけづくり)となるように、スタンプラリーを実施しました。若葉台全域と上川井・霧が丘から総勢20家族以上が参加されました。参加した施設は、そらまめが一番多く、次いで若葉台地区センターでした。なお、実施に際しては市社協の地区社協活動助成金(身近な地域の支え合い活動)を活用しました。



② 子育てスタンプラリー

10月1日～11月30日に若い世代6～22歳に、集会所・地区センター・ケアプラザ等の施設を廻ってもらい、若葉台の魅力発見と愛着を持ってもらい、ひいては商店街の活性化を図ることを目的に実施しました。参加者は120名を数え、多くの担い手にも支えられて活動することができました。若葉台以外からの参加者もあり若葉台の魅力発信にもつながりました。



③ 子どもの居場所づくり

2021年9月末の0歳～18歳人口は1,117人(若葉台全体の8.3%)と前年度より更に55人減少しました。集会室・ピロティ・公園を活用して、居心地の良い場所・雰囲気であるとともに、保護者にとっても生き生き(夢を実現)できる居場所づくりを目指して地域福祉保健部会で検討しています。具体的な案(ふれあい花壇等)は出ており実現に向けて動いています。

④ その他の活動への支援・協力

◆〔プレイパーク〕毎月の開催を支援・協力。

◆〔サロンみんなあつまれ!!〕開催を支援・協力。

(3) 障がい児・者支援活動

① 障がい児・者の居場所づくりの取り組み

今年度は新型コロナウイルスの出現で社会が一変し、新しい生活様式を踏まえた活動を鑑み、無理のない活動スタイルを模索する機会であった。工夫を凝らした活動を実践するには何をすべきか? 障がい者部会で話し合いをしました。支援をしてあげるのではなく、寄り添って一緒に考える姿勢で、どなたでも受け入れられる居場所があるという事が大事ではないだろうか?

その結果、あまり欲張らず、日常生活の復帰をめざした中途障がいになられた当事者の方々と意見交換をして、日々の生活の中で不便な事などお話ししてもらい、車いす移動での道路状況等を教えてもらいました。障がい者部会での取り組みも大

幅に前進して当事者の意見要望に応じていける様努力し、今後の方向性も当事者を中心に検討しました。

② 障がい児・者理解「ふれあいフェスティバル」開催

新型コロナウイルス感染拡大で実施できませんでした。

③ 地域住民とのふれあいの場

体力の向上、機能回復を目的としたふれあいの場として、若葉台地域ケアプラザで開催しています。若葉台地区センター、移動サロン「ほっこり」などの場においてもポッチャ等の活動を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大で実施することができませんでした。

④ その他の活動への支援・協力

◆〔裕楽会〕開催を支援・協力。

(4) 地域交流活動

① 福祉体験「孫子老の日」の開催

単独での開催を断念し、若葉台で実施するイベントに参加する形式で実施する予定だった福祉体験「孫子老の日」は、新型コロナウイルス感染拡大により、予定していた全てのイベントが中止されたことにより、実施することはできませんでした。

② 第31回若葉台地区社会福祉協議会感謝デーの開催

11月3日（水・祝）に、わかばの広場<石の広場>で予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大（第5波）と飲食を伴うために中止としました。

③ 第19回多世代交流「みんなあつまれ」開催

2022年5月5日（水・祝）遊水地グラウンド（若葉台多目的広場）で、子どもから高齢者までの多世代の方々が参加し、世代を超えた交流を通して笑顔で交歓していただくイベントを計画し、新型コロナウイルス感染対策を実施した上で実施しました。

④ 「カフェわかば」ボランティア

「カフェわかば」は、市内で唯一の横浜市立若葉台特別支援学校（横浜わかば学園）の生徒・職員により運営されています。地区社協は、民生委員・児童委員ならびに地域ボランティアの協力を得て、カフェ運営を見守るボランティア活動を2018年10月に開始し4年目を迎えました。協力して頂けるボランティアの数も口コミ・広報活動等の効果が奏して33名になりました。

一昨年10月から新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、ボランティアは1名体制ですが年間を通して入れるようになり、2022年度は延べ400人の方々にご協力をいただきました。まだ室内での飲食はできずパンの販売ですが、外にパラソルとイスが設置されて、コロナ禍での新しい形のカフェとなっています。ボランティアの方々にも安堵の笑みが見られるようになりました。

また、コロナ禍ではありますが、わかば学園の先生とボランティアの皆さまとによる情報交換会を開催して、生徒の教育の場である「カフェわかば」をより良

くするために、広報・メニューなど多くの意見交換することができました。

2020年4月から予定していたボランティアだけの月曜日営業は、新型コロナウイルス感染拡大で実現できていませんが、「カフェわかば」の地域での憩いの場・交流の場としての重要性は、コロナ禍で益々増していると感じています。実現に向けて活動を推進してまいります。

⑤ 学校連携

横浜創英大学こども教育学部の平野ゼミとの連携は、新型コロナウイルス禍でも細々と続けました。昨年度と同じプレイパークと若葉台地区民生児童委員協議会の放課後支援事業たんぽぽに、状況が許す時は来ていただくよう準備していましたが、今年度は数回だけでした。学生の皆さんにとっては数少ない実習の1つになったようです。今年こそは拡大していこうとしていたので地域にとっては残念でした。

⑥ 移動サロン「ほっこり」活動の展開

移動サロン「ほっこり」の開催も、2019年11月から数えて27回開催してきました。今年度は「わかばの広場」で11回開催しました。新型コロナウイルス禍にも関わらず毎回40名前後の参加があり、乳幼児連れの母親から100歳超えの方々まで多世代に渡って参加いただいています。のぼり旗の設置・広報活動の効果も相まって、地域における憩いの場として定着してきました。また、第一自治会と北自治会の協力を得て、出張サロン「ほっこり」を2回開催することができました。地域の憩いの場づくり・仲間づくりの輪が徐々に広がってきていることを実感しています。

さらに、2020年12月から横浜調剤薬局の協力を得て始めたお薬相談会も、ケアプラザ相談会、まちづくりセンターの住宅よろず相談会へと拡がり、相談者も延べ108名に達しております。



(5) 見守り活動

① 地域見守り活動報告会

高齢者等の要援護者への見守りは、民生委員・児童委員、友愛活動部会等と連携しながら実施している自治会が多く、地域全体で「隣近所が知りあい、助けあい」関係を深めることが最も重要と再確認いたしました。

3年ぶりに3月6日(日)には若葉台連自治会(担当、福祉地域部)と共催して地域見守り活動報告会(見守りネットワークについて学ぶ&ご近所ほっこり活動について考える)を総勢34名の参加を得て開催しました。第一部は、北自治会、北けやき(かがやきクラブ)、若葉台民生委員児童委員協議会、若葉台地域ケアプラザの事例報告と、(福)大樹理事長山本一郎氏「見守りネットワークとは何か」の講演。第二部は、参加者全員が小グループに分かれて意見交換を実施しました。参加後のアンケートでは、他組織の見守り活動がたいへん参考になった、見守りネットワーク作りが大切との意見が多数ありました。

なお、地域見守り活動報告会に先立って、各単位自治会における見守り活動の

状況調査を実施して提出いただきました。他自治会の見守り活動を参考に、自組織の見守り活動の充実に資することを願っています。

② 包括的な見守り「ご近助ほっこり活動」

旭区社会福祉協議会及び19地区社会福祉協議会では、課題を抱える世帯(個人)を早期に発見し、住民自らの力で課題解決し、必要な支援につなげていくために、地域社会からの孤立を防ぎ、様々な困り事を早期に発見し、問題解決につなげていくための新しい包括的な見守りの仕組み「ご近助ほっこり活動」に取り組むことになりました。



若葉台地区社協でも自治会等と協働して取り組む事にし、自治会に出向いて活動の趣旨説明会を開催させて頂き、活動への理解と参加・協力を呼びかけました。未だ参加自治会は少ないですが引き続き協力をお願いして参ります。

2. 福祉活動を支える活動

(1) きらっとあさひプランについて

① 第4期地域福祉保健計画(令和3年～7年)

地域福祉保健計画は、旭区で生活・活動している「すべての人」が健康でしあわせな生活を送れるまちを目指し、行政はもとより、地域で住みよいまちづくりに取り組まれている関係諸団体と協働し、地域住民が主体となって、共に力を合わせて取り組む計画です。

第3期地域福祉保健計画(平成28年～令和2年)として取り組んできた、若葉台および若葉台を取り巻く地域環境の変化に対応する方策、特に認知症対策・孤立防止の仕組みを強力に推進する地区別計画「向こう三軒両隣につながるコミュニケーション → 地域での孤立化を防止する」活動として、2020年度より始まった「あいさつ運動」と「移動サロン」は、地域の皆様にも浸透して来ました。

そして、第3期地域福祉保健計画の取り組みを継承しつつ、新たな取り組みとして、地区社協理事を中心に区役所・区社協・若葉台地域ケアプラザの地域支援チームの協力を得ながら、若葉台地区の未来図を策定しました。



私たちが描く地区の未来図

『困ったときに、声をあげられる雰囲気のあるまちづくり』

地域には価値観、考え方の違う人など、いろいろな人がいる。そして、いろいろなかわり方がある。困ったときに声を上げ、それを受け止めることができる地域。

若葉台地区社協では、「見守り」、「参加できる機会」、「居場所づくり」、「啓発」をテーマに地域福祉保健計画を推進しています。

未来図の実現の為に以下の4つの目標を設定して、毎月第2木曜日に福祉保健部会を開催し、具現化に向けて検討を重ねております。

- ①目標A：お互いを気にかけて環境を作る
- ②目標B：地域のだれもが参加のできる機会がある
- ③目標C：だれもが気軽に集まれる身近な場がある
- ④目標D：地域の取り組みを多くの人に伝える、だれもが地域へ情報を発信できる

具現化できた、ホームページの立上げ、Twitterで情報発信などを既
に実施をしています。

なお、第3期地域福祉保健計画の「きらっとあさひプラン」を知らない方が
旭区では8割にも上ったことから、第4期地域福祉保健計画の周知に際しては、
自治会を始め関係する組織（7組織）に出向いて説明会を開催しました。また、
関係する組織が発行している広報紙にも寄稿して周知に努めました。

(2) ボランティア団体への支援

「わかばネット」をはじめ地区社協参加団体に支援を継続しました。

(3) 助成金

2021年度もボランティア団体、当事者団体等へ助成いたしました。（別表
1参照）

(4) 赤い羽根街頭募金協力

10月1日（金）～3日（日）の10時から18時までイトーヨーカドー出入口
付近にて予定していました赤い羽根共同頭募金は、台風16号の影響で1日
（金）は中止せざるを得ませんでした。そんな中、まちづくりセンター、イトー
ヨーカドーの支援を得て、かがやきクラブ、福祉活動を行っている諸団体、若葉
台地区民生委員児童委員協議会、ジュニアボランティアの方々にご協力をいた
だき、赤い羽根街頭募金をイトーヨーカドー前で実施しました。コロナウイルス禍
の中で感染防止対策に万全を期して声掛けなし、CDでの呼びかけでの募金活動
となりました。

実施できた2日間はいずれも前年を上回る金額となりました。街頭募金にご協
力くださいました多くの皆さま、誠にありがとうございました。募金額は下表の
ようになりました。

月日（曜日）	金額（円）
10月1日（金）	台風により中止
10月2日（土）	89,274
10月3日（日）	61,337
合計	150,611



赤い羽根街頭募金額

なお、集まった募金の約7割は、募金をいただいた地域で使われていますが、
残りの約3割は、皆さまの住んでいる市区町村を越えた広域的な課題を解決する

ための活動に、都道府県の範囲で使われています。

(5) 表彰

① 令和3年度旭区社会福祉協議会社会福祉功労表彰として、以下の方が表彰されました。

● 地域福祉功労：井澤キヨミ様

2008年に義母が他界、その後夫春雄氏が倒れ、2012年からご主人が車椅子生活になり、要介護4と診断されました。それからは、奥様の在宅での介護、日々の献身的な介護の努力の甲斐もあって、介護3に改善されました。そして現在、春雄氏は病院に行くにも車椅子で行かれ、デイサービス週2回の生活を楽しんでおられます。奥様はおしゃべりサロン参加や踊りなど楽しみながら気持ちをリフレッシュされて生活されています。

3. 広報活動

(1) 広報紙「社協だより」の発行（年6回の発行）

社協の活動報告とボランティア団体の紹介・活動報告の掲載はもちろん、地域福祉の充実に向け地区社協のみならず地域でいろいろ活動されている様子や地区社協の目指すところなど様々な情報を提供しています。

特に、第4期地域福祉保健計画（令和3年～7年）の初年度でもあり、紙面を大きく割いて周知に努めました。

また、いつも地区社協の活動にご協力いただいている、お年寄りと障害者だけでなく地域の皆さまにとってなくてはならない施設である若葉台地域ケアプラザのさまざまな取り組み内容を、地域の皆さまに知っていただき、身近に感じていただければとの思いで「若葉台地域ケアプラザってなーに？」の連載は17回に達しました。地域ケアプラザのご協力に感謝を申し上げます。

さらに、2021年2月号（No. 133）から連載を開始した、「暮らしの情報」は、電話番号帳だけでなく、地域で活動しているサークル紹介、子育て世帯の居場所情報等の提供を行いました。

(2) インターネットを活用した情報提供

ホームページの立上げ（9月）、Twitter（1月）での情報発信を開始しました。まだまだ閲覧者・フォロワー数が少ないので、発信情報量と周知が必要と感じています。以下にURLとQRコードを記載します。是非、ご覧ください。

HP



<https://www.wakabadai-chikushakyou.org/>

Twitter



<https://twitter.com/chikushakyou>

(3) 地区社協をもっと知って頂くために！

地区社協って何をしているの？、そう思われる方が大勢いらっしゃるのですが、わかりました。そこで、2019年6月から自治会等関係団体に出向いて、地区社協の役割と活動内容を説明させていただき活動を実施しています。2021年度は、きらっとあさひプランだけでなく、新たに始まった「ご近助ほっこり活動」も含めて見守りの重要性を訴えるべく7団体に出向いて説明会を開催しました。

「きらっとあさひプラン」、「ご近助ほっこり活動」を知って、協力いただける方が増えることを願っています。

(4) 助成金交付団体の広報

助成金を交付しているボランティア団体、当事者団体等の方々にご理解をいただいて、社協だより等で広く周知しました。

(5) 諸団体の広報支援

若葉台における地域福祉課題である「参加できる機会」、「居場所づくり」の課題解決に向けて、若葉台で活動されている諸団体・サークルを社協だよりで2回に亘って紹介しました。

(6) 他媒体による情報提供

「連合自治会ブログ」、「みんなの若葉台」へ記事を掲載していただきました。

(ふれあいフェスティバル、みんなあつまれ、移動サロン)

4. 研修・講演会の参加・実施

(1) 役員・理事研修

① きらっとあさひ福祉大会 (2/11)

「地域の困りごとを発見・共有・解決するネットワークづくり」に役員5名、理事5名が参加する予定でしたが、コロナウイルス感染拡大により中止となりました。

② 認知症サポーター養成講座 (12/16)

2020年の65歳以上の高齢者の認知症有病率は16.7%です。高齢者が元気な若葉台でも、相当数の認知症有病者がいると推定されます。そこで、認知症に対する正しい知識、上手な付き合い方を学び、地域でどのようなサポートができるのか学ぶために、若葉台地域ケアプラザの協力を得て、理事会で養成講座を開催しました。(参加者28人)

(2) 講演会

地域見守り活動報告会 (3/6) において、(福)大樹理事長山本一郎氏「見守りネットワークとは何か」をテーマに講演していただきました。

(3) 地区社協分科会

地区社協に求められている「困りごとに寄り添い、ネットワークを活かして解決していく」という役割について、以下の情報提供・情報交換をしました。

① 第1回(6/6)は、「おたすけ無料頒布会」、「ご近助ほっこり活動」、「見守りの仕組み」

② 第2回(7/9)は、「ご近助ほっこり活動」、「地区社協における見守りの仕組みづくりの導入に向けて」

③ 第3回(11/26)は、「課題を抱える人や、孤立している人たちとのかかわり」

④ 第4回(1/27)、コロナウイルス感染拡大で中止

⑤ 第5回(3/24)、コロナウイルス感染拡大で中止

5. 地区社協活動

(1) 理事会・役員会

定例の役員会（第1水曜日）、理事会（第3木曜日）を開催して、地区社協活動の推進と関係諸団体との情報共有に努めました。

(2) 専門部会

● 地域福祉保健部会

毎月第2木曜日に、きらっとあさひプラン推進のために全理事の方にお集まりいただき、地域福祉の課題解決について議論を重ねています。

● 子育て部会

多世代交流みんなあつまれ!!の開催をしました。

● 障がい者部会

裕楽会（中途障がいとなられた方たちの交流会）に毎月参加しています。広報活動を支援しており参加者の増加につながっています。

(3) 賛助金募集活動

2022年1月～3月にかけて募集活動をさせていただきました賛助金は、地区社協活動のための大切な資金となるものです。今年度も個人・団体・法人から以下の協力をしていただきました。皆様から頂いた賛助金は地区社協の大きな財源となっています。皆様のご協力に心より感謝いたします。（3月31日現在）

個人	:	989,636円	
団体・法人	:	158,000円	(20団体・法人)
合計	:	1,147,873円	

6. 委員会等への参加

地域の福祉団体等と連携し福祉の充実を図るため、また、住みよい街づくりをめざして委員会等に参加しました。委員会等で積極的に情報交換を行い、得られた情報は役員会・理事会において情報共有を行いました。

※新型コロナウイルス感染拡大防止による書面審議と中止回数を含む

- (1) 若葉台連合自治会理事会（6回、:会長）
- (2) 若葉台地域ケアプラザ運営協議会（3回、会長）
- (3) 若葉台青少年健全育成委員会（2回、会長）
- (4) 若葉台プレイパーク活動運営委員会（1回、会長）
- (5) 若葉台地区センター委員会（3回、副会長）
- (6) わかば学園コミュニティハウス運営委員会（3回、会長）
- (7) わかば学園コミュニティハウス利用者会議（2回、会長）
- (8) 中央学童運営委員会（2回、副会長、理事）
- (9) 若葉台未来づくり協議会（6回、会長、事務局長）
- (10) 若葉台みらいづくりプラン推進会議（3回、会長）

[目的]横浜若葉台みらいづくりプランの目標実現及び各種取組みの推進にあた

り、プラン策定に携わった横浜マスタープラン策定委員会の構成員を中心に、継続的且つプランの主旨に適った適切な進捗管理を行うことを目的として、推進会議を設置する。

(11) 地域作業所若葉台ぶんげいざ運営委員会（3回、会長）

(12) かがやきクラブ若葉台第一・第二支部長会（2回、副会長）

(13) 若葉台特別支援学校運営協議会（4回、会長）

[目的] 学校と保護者、地域、福祉、医療及び関連機関等との相互理解や信頼関係に基づき、児童・生徒の健全な育成や社会的自立及び福祉の街づくりへの貢献に向けて、よりよい学校づくりを目的に活動とする。

(14) ひまわり活動推進会議（3回、会長）

[目的] 地域ニーズや課題を解決するための検討、介護予防・生活支援サービス事業の拡充、福祉のまちづくりを推進する。

(15) 商店街活性化部会（9回、役員）

[目的] 家主、店舗、地域住民が協働して商店街活性化はもちろんのこと、地域住民の憩い・交流・娯楽など商品売買の場を超え地域の雰囲気醸成する空間としての地域コミュニティの担い手となる。

(16) 障害者サポート会議（3回、会長）

[目的] 「安心・安全・健康まちづくり」とSDGsのまちづくり（障害者やご家族等を含めた誰もが住みやすい、利用しやすいまち）の実現に向けて、高齢者対応にとどまらず障害者（児）・多様性についても地域ぐるみで理解とサポートに努め、自分事として取り組む。

(17) 旧若葉台西中学校跡地活用検討・調整委員会（1回、会長）

(18) 地域ケア会議（3回、役員）

[目的] 高齢者等個人に対する支援の充実を目指し、地域での尊厳のある生活の継続を目指して、公である地域包括支援センターとボランティアを含めた地域住民とが情報を共有して、高齢者等を継続的かつ包括的にケアする。

(19) 若葉台小学校キッズクラブ評議会（2回、役員）

7. その他

(1) ボッチャー式の購入

障がい者との交流を通して理解を深めるために購入しました。

(2) 時計設置

2021年度の定期総会で承認していただきました「わかばの広場」への時計の設置は、設置工事の許可等の調整に時間が掛り設置できませんでした。次年度に継続して取り組むことになりました。